

富士露地バナナ 完全栽培ガイドブック

発行：富士市ベルバナナの会（富士露地ベルバナナの会） | 講師：鈴木 孝正

【はじめに】 本ガイドブックは、静岡県富士市を中心とする駿河湾沿岸エリアにおいて、露地（屋外）でバナナを育て、収穫に至るまでの実践的ノウハウをまとめた決定版テキストです。地域の気候特性の活用から日々の管理、耕作放棄地の活用事例まで網羅しています。

第1章：富士エリアの自然環境と歴史的気候

静岡県富士市の海岸沿い（旧鈴川地区など）は、昔から非常に温暖な気候に恵まれた地域です。日本一深い駿河湾からの暖かな風と海水温の影響、さらに沼川の水資源が重なることで、冬場でも霜が降りにくく、南国果樹であるバナナの屋外越冬を可能にする特殊なマイクロクライメイト（局地気候）が形成されています。

バナナ成長の条件「15度の壁」

バナナが積極的に生育活動を行うには日平均気温15℃以上が必要です。富士市エリアでこの条件を満たすのは5月～10月の約6ヶ月間に限られます。この限られた活動期にいかに「働き葉」を増やし、エネルギーを蓄えさせるかが成功の鍵となります。

第2章：バナナの生育サイクルと「葉の枚数」

バナナは成長の過程で順々に大きな葉を広げていきます。健康な株では、生涯で35枚～40枚程度の葉を展開したのち、株の中心部から赤紫色の「バナナハート（花苞）」を出現させます。

光合成を担う「働き葉」の重要性

実を大きく甘く育てるためには、バナナハートが出る段階で十分な枚数の健全な葉（働き葉）が揃っている必要があります。葉が少ない状態で開花してしまうと、実に十分な栄養が行き届きません。

第3章：バナナハート出現時期と果実の成否

富士エリアの露地栽培において、バナナハートが出る「時期」は収穫の成否を決定づける最も重要な要素です。

出現時期	区分・名称	特徴と管理方針
4月～5月上旬	要注意 フライングバナナ	冬越し直後で「働き葉」が不足。実が太らず途中で枯れやすいため、早めの栄養管理が必要。
7月～8月10日頃	ベスト 理想の開花期	最高品質！ 夏至（高い日照度）を挟み積算温度が充分。実が大きく甘みも最大限にのる。
8月中旬（お盆以降）	限界線 収穫限界ライン	秋の気温低下までに育ちきらず、小ぶりの実になりやすい。ギリギリのライン。
9月以降	切除推奨 出遅れバナナ	冬場に残しても黒ずみ美味しくない。早めに伐採し、親株・子株へ栄養を集中させる。

第4章：地域活性化と「バナナ街道」への挑戦

富士市では、地域の大きな課題である耕作放棄地の解消に向け、バナナの力強い繁殖力を活かした「バナナ園」への再生を進めています。近年では広大な土地を開墾し、地域住民やボランティア（ベル・ボラ隊）と協働して「バナナ街道」を整備。地域振興や子供たちへの食育講座（元吉原バナナづくり講座など）へと広がっています。

第5章：季節ごとの管理カレンダー

- ・春（4月～5月）：冬越し資材の撤去、土壌の耕起、施肥（15℃超えとともに成長開始）。フライングバナナの観察。
- ・夏（6月～8月）：水やりと追肥のピーク。7月～8月上旬のバナナハート出現に注目。台風対策（支柱立て）。
- ・秋（9月～10月）：出遅れバナナの早期伐採（栄養集中）。10月下旬からの収穫作業と追熟。
- ・冬（11月～3月）：15℃以下で成長停止。藁巻き・マルチング等による厳重な防寒対策（冬越し）。

※ 本テキストは「ベルバナナ」公式サイト（<https://bellbanana.stars.ne.jp/>）および市民講座資料を基に編纂されました。

© 富士露地ベルバナナの会 All Rights Reserved.